



オトナのふるさと学習

月刊このへん だいすき

令和元年
8月号

作 セルジュ・タカハシ

記録や形には残らず、日々失われていく地域の記憶
いまさら人に聞けない「このへん」限定のジャンゴな話題あれこれ
ずっと「このへん」なあなたも、最近「このへん」なあなたも、
読めばたちまち、「このへん だいすき」に



新生日本をうたいあげ、 日本を奇跡の復興に導いた 「このへん」発の大流行。 あの唄と、あの歌のパワー。

新生日本

奇跡の
復興

あの唄と
あの歌

昭和20年8月、日本は大きな被害を受けた太平洋戦争の終戦を迎えた。新しい価値観を求める声は日本中にあふれ、復興への道のりが始まった。

終戦から3年後の朝鮮戦争の景気が戦後復興と高度経済成長をもたらす。昭和31年には国民所得が戦前の最高額を突破する奇跡の復興が実現した。

人々にいやしと元気を与えたのは、戦後日本映画第1号「そよかぜ」の主題歌「リンゴの唄」と、新生日本への期待を歌う「青い山脈」だった。

また終戦の日がやってきます。昭和二十年八月、日本は壊滅的な戦争に敗れました。空襲や爆撃などで国土は破壊され、三百万の国民が戦病死するという悲惨な戦いでした。その終戦からわずか二か月、戦後日本映画第一号「そよかぜ」が公開されます。雄物川町出身の佐々木康監督が増田で撮影し、主題歌「リンゴの唄」は爆発的な大ヒットになります。四年後の二十四年には、映画「青い山脈」が公開されました。新時代への期待を描いた主題歌は、日本人の愛唱歌として今も歌い継がれています。石坂洋次郎の原作は、現在の横手高校と横手城南高校で教師をした体験をもとに書かれた当時のベストセラー小説でした。生きるだけで精一杯な日々への希望になった「リン」の唄。復興から成長に向けた一歩を後押ししてくれた「青い山脈」。「このへん」発世の応援歌は、絶大なパワーを持っていました。日本に奇跡の力をもたらしたそのポテンシャル。おそろへし。

POINT

敗戦でうちひしがれた日本に、奇跡のV字回復を実現させたのは、「このへん」発の国民的応援歌、「リンゴの唄」と「青い山脈」だった。

